

放射線学習(コミュタン福島)

11月6日(水)、5、6年生が放射線学習のために、三春町にあるコミュタン福島に行ってきました。この施設は平成23年に発生した3.11東日本大震災を教訓として、4年前に完成した福島県環境創造センター内にある施設です。無料で入館することができて、いろいろな体験をすることができる学習施設になっています。また、360度スクリーンのシアター(国内では、東京にある国立科学博物館とコミュタン福島の2つだけだそうです。)もあり、素晴らしい映像を見ることができます。

子ども達は、施設の所員の方から、3.11東日本大震災で発生した東京電力福島原子力発電所爆発事故の発生原因についての説明を聞き、現在、福島県が目指している再生可能エネルギー(太陽光・風力・地熱・水力・バイオマスなどの発電)への移行について教えていただきました。(現在、福島県の移行率は33%で全国第2位だそうです。)その後、大型霧箱でα線やβ線、宇宙線といった放射線を見たり、大型スクリーンで県内各地の放射線量を調べたりしました。また、高度な器具を使った放射線量の測定にも取り組み、放射線それぞれの特性や放射線から身を守ることにについて理解を深めることができました。

福島県の子ども達にとって、放射線について正しい知識を身につけておくことは、とても大切なことです。数年前、福島県から他県に避難している児童が周りの児童から「〇〇菌」と呼ばれいじめられていたという事例があったことは保護者の皆さんも記憶していただけることと思います。将来、子ども達が福島県から出て生活することになったとき、いわれなき差別に絶対にあわないとは言えません。そして、そのことに対応するためには子ども達自身が、放射線について正しい知識を持ち、きちんと説明する力を身につけておくことは、自分を守るためにとっても大切なことです。



原子力発電所を復元した模型



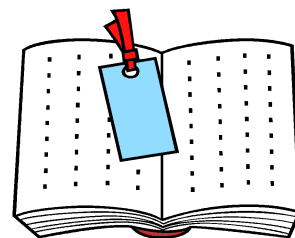
説明を聞く子ども達



実験に取り組む子ども達

秋の夜長 本を読みませんか

日増しに日没の時刻が早くなり、子ども達が家の中で過ごす時間も長くなっていることと思います。子ども達の家での過ごし方はどうでしょうか？テレビやゲームに夢中になっていないでしょうか？学校評価アンケートの結果で、いつも課題になる項目は「**家読(家庭での読書)**」です。本を読むことは、少し続けることで習慣化してきます。また、AI(人工知能)が進んでいる今、人間に求められているのは文章を読み取る力です。AIは文章を大まかに分類することはできますが、内容を理解することは苦手です。これからの社会で生きていく子ども達にとって、文章を読み取る力は、とても大切です。秋の夜長、子ども達と一緒に本を手にとって、読書に取り組んでみてください。きっと、いい時間が持てると思います。



奉仕作業・資源物回収お世話になります

- 11月17日(日)は、今年度3回目の奉仕作業と2回目の資源物回収を行います。
- ◆ 奉仕作業は、午前7時より、校庭周りの樹木の雪囲い作業が中心になります。
 - ◆ 資源物回収は、前回同様旧小学校区ごとに回収場所を設置しました。回収するものについても前回同様です。
- 早朝から長丁場の作業となりますがご協力よろしく申し上げます。

